

社会医学研究会創立總會

公 衆 衛 生

第24卷 第11号 別冊

昭和35年11月15日 発行

東 京 醫 學 書 院 大 阪

## 社会医学研究会創立総会

日 時 昭和 35 年 7 月 29 日  
場 所 日本都市センター

### 創立総会次第

1. 開会挨拶
1. 議長選出
1. 経過報告
1. 会則審議
1. 世話人選出
1. 会計報告
1. 昭和 35 年度予算案審議
1. 次回研究会の開催について
1. その他

### 創立総会の経過

1. 開会挨拶 公衆衛生院 曾田長宗氏  
昨年 7 月に準備会を兼ねて研究会が開かれ、その時の多数の方の御意見によつて、本年は一定の形式による総会を開くこととなつた。研究会の内容、名称についてはすべて総会にまかせようということで、全員の呼びかけも不十分ではあるが一応発足することとなつた。今後は皆さんの御意見に従つて会が発展することを期待する。

#### (挨拶要旨)

1. 議長選出 大阪大学 関俣四郎氏を選出
1. 経過報告
1. 会則審議

準備世話人の中で作成提出された原案をめくり、特に維持会員の権利と義務について論議され、維持会員を正会員とする考え方(世話人原案)と、普通会員が正会員であつて維持会員は特志同道合者であるとする考

え方が対立したが、緊急動議により一応原案のまま可決し、研究会の終了後再度審議することとした。

#### 1. 世話人選出

地域、職域等を代表するように考慮して世話人を選ぶという基本線を確認し、第 2 日に、初日参加者名簿により選挙することとした。

#### 1. 会計報告

創立総会までの準備期間の会計報告が世話人事務局より行われ、承認された。会計報告内容は次のとおりである。

#### (収入の部)

準備会参加費 16,200 円

#### (支出の部)

会議室借料 6,000 円

記録係食事代 2,700 円

飲物代 3,180 円

通信費 1,800 円

会議諸雑費 1,060 円

準備会経費 1,460 円

合 計 16,200 円

#### (収支残額)

0 円

#### 1. 次回研究会の開催について

今回は京都あるいは大阪で明年 4 月乃至 8 月に開きたいという希望意見があり、詳細は世話人会に委任された。

#### 1. その他

準備会記録に誤印刷があるので、その訂正の申し入れがあつた。

## 社会医学研究会臨時総会

日 時 昭和 35 年 7 月 30 日  
場 所 日本都市センター

### 臨時総会次第

1. 会則改正に関する件

創立総会のときに懸案となつていた維持会員と普通会員の権利、義務について討論されるとともに、任期を明らかにし、別記のような会則を決定した。

## 1. 世話人選挙の件

連記無記名投票により次の10氏が世話人として当選した。なお、この10人の世話人会で更に地域、職種等を勘案して若干名の世話人を委嘱することとした。

## 世話人

曾田 長宗	吉田 幸雄
橋本 正己	小宮山新一
関 悌四郎	芦沢 正見
松浦十四郎	若月 俊一
朝倉新太郎	庄 司 光

## 懇談会

第1回の研究会を終つて、今回の研究会の反省、今後のあり方について意見の交換を行い、次のような意見が出された。

## 1. 今回の研究会の反省

「演題が多く、そのため時間が足りなくなつた。明年からはテーマをしぼつたらよいのではないか。そして、他に地方会をもつて、そこで十分色々な問題を討議する機会を作つておいたらよい。(曾田)」という意見が多数であつた。そして「あまり高尚な理論に走らぬようにする必要性(橋本道夫)」も強調された。しかし一方「問題をしぼることは必要だが、そのしぼり方によつては、期待が満されることが起るので、その点を考慮しなければならない(朝倉)」という意見も注意をひいた。

また「研究会でとりあげる演題のことだけでなく、社会医学の方向と分野をある程度打出す必要がある(橋本

正己)」という点も注目される意見であつた。

## 2. 研究会の形式について

時間的に短かいという感じが今回の会議出席者の大部分にもたれたようであつた。そして資料を印刷して事前に配布しておくべきであるという点については全員一致した意見であつた。

また会議の際の発表に当つては、「会議出席者は十分考えている人だから前置きを省いて本旨の説明だけを十分にすべき(荻村)」であるとの意見があると同時に、「研究発表までの経過、苦心も加え、結論までの考え方も大切である(曾田)」との意見もあり、今後の発表のあり方に対する批判が行われた。そして地方の会合を育成して、そこで十分に討論できる場を作ること、そしてその中から中央集会へもつてくるというような行き方の必要性が強調された。

そして内容としてはもつと社会科学の方面や臨床的方面の人々の参加を求めそういう分野に拡げてゆくことが望まれた。

また他の学会との関連も、独自の分野を明らかにして作つてゆくことは大切だが、他と結びつく点は結びつつ、できうる限り協調してゆくようにすることが望まれるとともに、若い人々が今まで満されなかつたものが満されるような会に育ててゆくようにという希望も出された。

また研究会の報告集を公刊すること、将来は独自の印刷物をもつことを目指したいという意見が強かつた。

## 次号予告(第24巻 第12号)

綜 説	世界各国における成人病対策(その3)デンマーク	山 形 操 六
	ノルウェーの結核対策	清 水 寛
	中小企業の衛生管理協同化について	東 田 敏 夫
	新都市造成と保健医療福祉サービスの総合計画	朝 倉 新 太 郎
	わが国における病院の公衆衛生活動の現況	吉 田 幸 雄
教 育	環境衛生(Ⅱ)——空気・衣服・住居・公害——	安 倍 三 史
原 著	群馬県沼田市の住民検診に関する報告	高 橋 一 美
	高血圧血管硬化の眼底所見に関する疫学的研究	川 上 秀 一
	放射性同位元素投与患者屍体の処理について	砂 田 毅・他